

令和5年度第1回高知県スポーツ振興県民会議 地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時：令和5年10月11日（水）13：30～15：30

場所：高知県立文学館 1F ホール

出席：池田委員、川口委員、北村委員、葛岡委員、公文委員、島崎委員、田井委員、前田委員、
山崎悠氏

議事：

- (1) 令和5年度スポーツ施策の進捗状況について
- (2) 来年度の強化ポイントについて

1 開会

2 部会長選任（部会長 前田 和範）

高知県スポーツ振興県民会議条例第6条第1項に基づき、立候補及び推薦の有無を確認し
たがなかったため、事務局から提案を行うことに委員全員から異議がないことを確認し、次の
とおり提案し、委員全員から異議がないことを確認した。

3 議事

令和5年度スポーツ施策の進捗状況について

【事務局説明】

- 資料1を使用して説明。

（葛岡委員）

○大学生へのアンケートで、70%が興味があるとのことだが、アンケートの質問の中に無料
でもやるのか、それともお金をもらえないとやらないのかという質問はあるかについて知りた
い。お金が発生するとクラブとしてもハードルが高くなるため、今後の参考にしたいと考えて
いる。

（前田部会長）

○部活動の地域移行をベースとした外部指導員の1,600円/時を前提としたアンケートであっ
た。大学生のアルバイトの賃金の調査も同時に行っている。学生自身が現在行っているバイト
よりも高い収入が得られるのであれば、学生自身がやってきたスポーツを活用していく選択肢
もあるのではないかと思う。一方で、どこからそのお金が出るかは議論する必要がある。

来年度の強化ポイントについて

【事務局説明】

●資料3を用いて説明

(田井委員)

○資料1のスポーツ参加のところで、子どものスポーツ環境整備事業費補助金による財政支援が6市町村とあるが、これは(2)の第1回広域スポーツハブ促進委員会に記載の6市町村のことか。

(事務局)

●その6市町村とは異なる。広域スポーツハブ促進委員会は県が主導して行っているもので、子どものスポーツ環境整備事業は市町村が行う取組に県が補助しているものである。

(田井委員)

○現状6市町村であるものを、今後、令和5年度中に14市町村にしていくという認識で合っているか。

(事務局)

●6市町村は、子どものスポーツ環境整備事業費補助金を活用していただいている市町村数である。目標にある「子どものスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村数」については、運動部活動の地域移行のことと絡めて協議会を設置し取り組んでいる市町村の数であり6市町村とイコールではない。

(田井委員)

○総合型地域スポーツクラブでは子どもへの取組を多く行っているが、この資料ではどこにも見えてこないのか、県としてはあまり重要視していないのか。

また、障害者がスポーツをすることができる団体数(主に競技団体と思われる)が現状27団体となっている。こちらも総合型地域スポーツクラブへの調査も特にないため、数に含まれていないと思われる。こういった資料に総合型地域スポーツクラブの取組などはあがってこないのか。

(事務局)

●総合型地域スポーツクラブにおいて、子どもへの取組を多く行っていることは十分認識している。地域スポーツハブの取組で行政やスポーツ団体、スポーツ団体以外の地域の関係者等と連携しスポーツ課題に取り組むことを推進してきており、地域の関係者が新たな課題に取り組むという体制で様々な課題解決を前に進めていくことを重要視しているため、決して総合型地域スポーツクラブの取組を軽視しているわけではない。

また、障害者スポーツに関しては、県が把握している団体数を記載している。総合型地域スポーツクラブへ直接調査はかけていないが、取組状況について捉えているつもりではある。ただ、漏れがあってはいけないので、再度確認をさせていただき、数値に反映していく。

(田井委員)

○現在、スポーツができずに様々な施設にいらっしゃる障害者の方にもスポーツを広めるという意味では、スポーツ団体だけではなく、総合型地域スポーツクラブなどの取組も数値に出していただきたい。

(北村委員)

○私見であるが、県を代表するパラアスリートとして池選手がいる。池選手という人材を活用し、車いすラグビーを柱としてパラスポーツを推進していけると、来年フランスのパリで開催されるパラリンピックもあつたりするので、盛り上がりを見せられるのではと思う。また、スポーツツーリズムの観点でも、車いすラグビー選手は障害が重いこともあり、彼らが県内を観光することで、県外から見ても魅力的にうつるのではないかと思う。彼を取り上げるのであれば、今が一番良いタイミングだと思う。

(事務局)

●障害者スポーツについては、まだまだ課題がある中で特に健常者への取組との違いで、組織的に支援を行うことについては弱いという現状がある。パラスポーツのすべての競技について一気に支援していくことは現実的に難しいので、代表的なものに支援を行ったり、取組を取り上げることで、理解が深まり、全体へつながることは重要な視点である。また、選手の発掘、育成の取組については、まず陸上に関する取組を展開できないかということで調整している。この取組を陸上や車いすラグビーだけでなく他のスポーツへもつなげていくことが重要であると考えている。

(山崎 悠 氏)

○黒潮町では、上半期の実績として、コロナが5類へ移行したこともあり、延べ宿泊数が前年度比で116%となりコロナ前である令和元年度の数字とほぼ同じになっている。また、直接的経済効果についても昨年度比約124%であり、当初の目標数値をクリアし、コロナ前より高い数値となっている。こちらでは特にアマチュアスポーツを中心に誘致活動を行っており、夏休み、冬休み、春休みの期間は、ほぼ受入れがいっぱいである。メインスポーツである、サッカーや野球については県全体としてハード面でいっぱいの状態であると思われる。また、受入れ地域については、黒潮町もアマチュアスポーツにおいて多くの大会助成金を使用させていただいている。黒潮町だけで取組を行っても波及効果が限定されてくることは十分認識しており、幡多地域の6市町村での広域スポーツツーリズムができればということで、特に宿毛市や四万十市には宿泊施設も多くあるので、そちらで受入れをしてもらっているという状況。他方で、6市町村だけでは課題解決や、誘客のターゲットの絞り込みに苦戦をしている。質問として、県が連携協定を締結しているそれぞれの団体と、どのような目的を持って取組をしようとしているのかを知りたい。また、目に見える目標数値等も大事ではあるが、スポーツは目に見えない部分もある。多くのチームが県内外から来ており、そのことで宿泊施設やその付近の地

域の方々を明るく笑顔にしている。私たち現場で働いている者としては、目に見えない部分も重要視していただきたい。

(事務局)

●パナソニックスポーツ株式会社とは、特にラグビーでつながった。県からするとチームのラグビーの合宿の誘致、県内のラグビー関係者への指導による競技力の向上などにより、企業側からすると、ラグビーの普及や企業のPRの推進という目的で協定を結んでいる。現在、連携した取組はストップしてはいるが、引き続きこういった目的で取組を行い、スポーツツーリズムの推進へとつなげていきたい。

大阪体育大学は、スポーツ資源が多くある大学であり、競技力も高く、指導者も多方面に知見をお持ちの方がいる。そういったスポーツ資源を高知県で展開していただいたり、地域の子どもたちへ大学生が指導することで、学生の学びの場として本県を活用していただくことや、大学入学者確保という観点でも高知県の高校生へのPRなど教育面としての目的も持ち、取り組みを行っている。

阪神タイガースとは、秋季キャンプの継続や、特に安芸市を中心とした地域への貢献など、さらにスポーツを通じて様々な取組ができるのではないかとすることを目的として協定締結をしている。

PERF株式会社は、プロダンスチームを運営している会社であり、スポーツコミッションを通じてつながりができた。チーム側としては地域とのつながりがないことが課題であり、ダンスの普及、振興という想いを強く持っている。県としても子どもたちへのダンスの指導という面でプラスになることが多くあるため協定を締結した。現在、多くの学校で教員も含めダンスの指導を行っていただいている。ダンスの需要は障害者の方を含め多くあるため、今後多方面にわたってダンスを活用していきたい。

高知リハビリテーション専門職大学とは、スポーツ科学センターとの連携で、医科学面でサポートを充実させていきたいという目的である。

また、スポーツツーリズムにおいて、単に地域への入れ込み客数を増やしていくということだけでなく、様々な地域の活性化に寄与しているということは十分認識している。子どものスポーツ環境づくりにおいても、スポーツ環境の整備だけでなく、地域の方がどのように連携していくか、どのようなまちづくりをしていくのかということも非常に大事な視点であると考えている。

(公文委員)

○1点目、1ページ目の子どものスポーツ環境づくりの件について、市町村が取り組んでいるということだが、具体的な対策として競技団体の方が考えや知恵があったりする場合もあるかと思うので、そういったところまで政策案がおりれば、具体的な話ができるのではないかと思う。

サッカーで、先日香川県で行われたイベントに参加してきた。日本サッカー協会がマジカルフィールドという小学3年生以下の女子を対象として、ディズニーとコラボしたイベントが実

施された。イベントの見せ方として、サッカーというよりも、完全にディズニープリンセスとなっており、サッカーをしている子ではなく、初心者の子を対象としていた。親子での参加が原則だが、想定を超える申込みがあったと聞いている。うまい仕組みだなと思ったのが、スペシャルゲストとして2011年の女子サッカーの日本代表であった澤選手や宮間選手が来ており、保護者は選手を見て感心し、帰りに子どもたちにはボールを1球プレゼントすることで、子ども達がイベント後にボールを手に入れてサッカーを続けることができるということ。保護者を巻き込んでいくということと、子どもにどのようなアイテム（ボール）を渡すかという点においてうまいやり方だと思った。地域を巻き込んでいくという話があったが、保護者にも関心をもっていただけるような仕組みづくりが必要だと思うので、市町村と連携するとともに、部活動の指導員だけではなく、市町村から地域の競技団体などに政策が伝わるようにしていただければと思う。先ほど言った事例なども単発で終わらせるのではなく、その後どのようにして地域につなげていくかが大事だと思うので、今後自分たちがやるときにはそこまで考えていく必要があると思っている。

2点目、企業への選手の受入れが書かれているが、選手が大学への進学などで一度県外に行く想定なのかなと思った。もちろん県外に行くことで学べる経験もあると思うが、できれば高知県内で続けていくことができるような環境整備もしていただくと、今後の国体にも繋がるのではと思う。教育委員会の方で中山間を中心に「地域みらい留学」という形で取組をされている。勤務する大方高校で女子サッカー部があるので制度を利用して募集していたら、女子サッカーがしたいという事で、「地域みらい留学」経由で本校を選んでくれた生徒もいた。競技のTOP of TOP（上位中の上位）の選手が来ているわけではないが、競技の持って行き方や施策においてはTOP（上位）の選手も学校教育とともに競技を継続してくれる環境になるのではと思っているし、様々な競技を普及していくという面から見ても、県外から関心のある生徒が本校の学校教育+αの活動として、競技をしたいという子どもたちを受け入れるというのは競技人口を増やすという意味でも大事と思った。

(事務局)

●子どものスポーツ環境づくりにおける調査において、1万人弱の方に協力いただき、現在集計しているところである。地域によって現状は様々であると思うので、調査結果を分析し市町村ごとに、また、関連団体に対して情報を提供し、必要に応じてご協力いただきたい。

また、保護者を巻き込んだ取組については、マッチングプログラムの内容を先ほど教えていただきましたことも参考にし、より参加していただけるものにしていきたい。

企業の受入れについては、県外に出た方だけではなく、県内に残った方に対しても対象に考えていくことも大切である。また、トップアスリートだけでなく競技を続けたい方へも幅広く対象にしていきたい。学校への受入れについても、教育委員会とも連携をとり進めていきたい。

(北村委員)

○インバウンドツーリズムについて、お遍路さんに非常に多くの外国人がいらっしゃるように

思う。お遍路さんの参加状況はどの部署が把握しているのか。

また、サイクリングロードについて、県として、サポートマップや安全に走れる道路の整備等、県の現状の取組をお聞きしたい。

(事務局)

●お遍路さんの捉え方としては、歩き遍路についてはスポーツというより観光振興ということで、四国4県で精力的に取り組んでいる。四国4県で連携し、例えば、自転車で回れるコースはできないかなどについて考えているところである。

サイクリングのコースについては、県推奨のぐるっと高知サイクリングロードにおいて43のコースを安全に通れるという前提のもと設定している。また、四国4県で四国1周のサイクリングコースを作っており、そこにはブルーラインを引いておりそのラインをたどれば四国1周が可能である。サイクルスタンドや空気入れを提供できるよう県内で84箇所のローソンや道の駅に県コンベンション協会と連携し支援している。

(葛岡委員)

○現在子どもたちが何かをしたいときにどこへ行けばいいのか、どこへ連絡すればいいのかの情報がわかりづらい。まとまったページがあるとありがたい。

また、企業に勤めながら出場している選手が増えレベルが上がってきている。このことは子どもたちにとっても刺激になり、とても重要なことであると思った。

そして、健康経営に関しても企業と連携しスポーツの場を作っていくこともひとつの手ではないかと感じた。

(事務局)

●情報発信については、すべてのチームを網羅することは難しいかもしれないが、高知県スポーツ協会と連携したり、こうちスポーツ NAVI を活用していきたい。

また、健康の取り組みについてはスポーツ課だけでは難しいので、他の部局とも協議を行い企業との連携なども行っていきたい。

(北村委員)

○地域のスポーツ指導者の確保について、パラスポーツ指導員も同様に、確保に苦慮している。特に、現役で仕事をされている方の協力は得づらい。そこで、現役の県庁職員が、どの程度ボランティア活動等に参加しているか、これを調査し、示していただければ、企業の参加が促されるのではないかと考える。

(事務局)

●今すぐにこのような調査ができるとはお答えできないが、庁内でどのようなことができるかについて検討したい。

(田井委員)

○各団体が作るイベントのチラシに、こうちスポーツ NAVI のバナーなどを貼り、PR してもいいのであれば、より閲覧率も上がってくるのではないかな。

(事務局)

●ぜひご協力いただきたい。

(島崎委員)

○スポーツ推進委員として地道な仕事をしている。市民スポーツレクリエーション祭の中で子どもの参加が多く、将来の夢を語る子どももいた。スポーツ推進委員としてはこういう地道な活動を行っている。子どもの減少が進んでいる高知市でも野球などチームが成り立たない。子どもが増えるようなことを県で考えていかななくてはならない。

(事務局)

●スポーツ推進委員の方々には、地道な取組をしてくださっており、注目されるようなシンボリックな取組を検討している。子どもの数の減少については、危機感を感じている。市町村ごとにスポーツの課題にどのように取り組んでいくのか考える必要がある。また、広域で取り組む必要があるものについては、県でとりまとめ市町村の枠組みを超えて取り組みたい。移動距離の問題などもあり、すべての地域ですべてのスポーツを普及していくことは難しいが、地域ごとに考える必要があるので、市町村と連携し取り組みたい。

(島崎委員)

○県民体育館 50 周年においてレスリングの体験をとおしてレスリングをやりたいという報道をみた。素晴らしい取組である。しかし、レスリングは地域にはなく受け皿を地域につくっていく必要がある。

(池田委員)

○学校という狭い単位で活動してきており、地域移行となると各市町村や県とどういったことができるのか、どういったことをお願いできるのかなど様々な課題があると思うので、一緒に考えていきたい。

(川口委員)

○スポる KOCHI について以前よりも面白い記事が増えており、検索もしやすいため、もっと表舞台に出て行くようにできたらいいのかなと感じた。その中で「釣り」など大きなスポーツ以外のものも増やせていけたらさらに良くなると感じた。

(事務局)

●Google アナリティクスを活用し、どのような方に見られているかなど属性を確認しながら進めている。現在、若者向けの情報を中心に載せているものを、親子向けなど家族でも楽しめるように釣りやサーフィン、サップなど幅広く載せていきたい。

(事務局)

●スポる KOCHI は面白い記事が多く載っており、県外の方だけでなく県内の方でも新たな発見があると思うのでぜひ見ていただければと思う。

(前田部会長)

○様々な意見がでましたが、スポーツの捉え方が広がってきている。例えばお遍路はウォーキングと捉えることもできる。県庁の中でスポーツに関係する様々な担当があるが、それを把握して施策を考えていただきたい。ツーリズムで稼いだお金を直接的にスポーツ指導者の謝金にするなど広域で検討会議などは開かれているのか。また、最終的には財源が必要であるが、指導者について様々な人で話し合いが行われているのかについて知りたい。

(事務局)

●広域スポーツハブ促進委員会については、複数の市町村と情報共有をしているが、持続可能な取組みにつなげていく具体的な協議までは至っていない。

先ほど部会長もおっしゃっていたスポーツに関連して外から取り入れたものを地域の中で循環して継続していく、補助金に頼らなくてもという視点は非常に大事な視点であるので、他県の取組を参考に委員会に提供していきたい。また、スポーツツーリズムの会においても、このような視点は大事であるので、地域のスポーツ部署の担当の方、また、関係者等にもそうした視点を持ってもらえるように県としても対応していきたい。

以上

署名 前田 和範